

分野 専門基礎			
科目名 解剖生理学	単位	1単位	開講時期 1年次前期
	時間	30時間	
講師名 大崎 康吉	実務経験	歯科医師として医療機関に勤務	
授業概要			
正常な人体の基本構造と生理的機能の関連を理解し、それらが疾病によってどのように変化し、加えて診断・治療によってその変化にどのように働きかけて回復過程を辿るのか考えられる土台を作り、その回復過程の中で看護ケアをどのように行えばいいのか根拠立てて考えるための基礎的能力を養う			
到達目標			
1.人の栄養・代謝機能に関与する人体の構造と機能について説明できる			
2.人の活動/運動機能に関与する人体の構造と機能について説明できる			
3.人の排泄機能に関与する人体の構造と機能について説明できる			
4.人の認知・知覚機能に関与する人体の構造と機能について説明できる			
5.人の生殖機能に関与する人体の構造と機能について説明できる			
6.人の防御機能に関与する人体の構造と機能について説明できる			
DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
1	オリエンテーション	講義 ポストテスト	
2	栄養・代謝に関与する器官の構造と機能		
3	(消化器、内分泌、体液)		
4	活動/運動に関与する器官の構造と機能 (呼吸器、循環器、運動器)	講義 ポストテスト	
5			
6			
7			
8	排泄・生殖に関与する器官の構造と機能	講義 ポストテスト	
9	(腎、泌尿器、生殖器)		
10	認知・知覚に関与する器官の構造と機能 (脳・神経、皮膚、感覚器)	講義 ポストテスト	
11			
12			
13	防御に関与する器官の構造と機能 (血液、免疫、体温調節、浸透圧)	講義 ポストテスト	
14			
15			
	終了試験		
受講上の注意			
准看護科時に学んだ解剖生理学を復習して臨むと理解しやすい ポストテストを受けた後は必ず復習しておく			
評価方法			
ポストテスト15点 終了試験85点 合計100点満点			
使用するテキスト			
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 解剖生理学 (医学書院)			
参考文献			

分野 専門基礎			
科目名 病態生理学		単位 1単位	開講時期 1年次前期
		時間 30時間	
講師名 福泉 忠興		実務経験	医師として医療機関に勤務
授業概要 身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に生じる異常な変化について知り、看護の対象である人に現れている症状や徴候といった病的な状態について理解し、損なわれた生理機能の回復や失われた機能の回復のプロセスに関与する看護援助を根拠立てて考える力を養う			
到達目標 1. 疾病の基本について説明できる 2. 主要な疾病の概念、病因、症状・徴候・症候を含めて病態の成り立ちについて説明できる			
DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○			
○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
○ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
◎ 5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
1	オリエンテーション	講義	
2	基礎知識(循環障害、細胞・組織の障害、感染症、腫瘍、先天異常と遺伝子の異常)	ポストテスト	
3	栄養・代謝に関与する器官のしくみと病態生理(消化・吸収、体液)	講義、ポストテスト	
4	〃 (内分泌)	講義、ポストテスト	
5		講義	
6	活動/運動に関与する器官のしくみと病態生理(呼吸及び循環)	講義	
7		講義、ポストテスト	
8	〃 (骨・筋)	講義、ポストテスト	
9	排泄に関与する器官のしくみと病態生理(腎)	講義、ポストテスト	
10	〃 (泌尿器・消化器の一部)	講義、ポストテスト	
11	認知・知覚に関与する器官の仕組みと病態生理(脳・神経)	講義、ポストテスト	
12	〃 (皮膚・感覚器)	講義、ポストテスト	
13	生殖に関与する器官のしくみと病態生理(生殖器)	講義、ポストテスト	
14	防御に関与する器官のしくみと病態生理(免疫)	講義、ポストテスト	
15	〃 (血液・体温調節)	講義、ポストテスト	
	終了試験		
受講上の注意 事前に解剖生理学を復習して臨む ポストテスト解答後必ず振り返りをしておく			
評価方法 ポストテスト 20点 終了試験 80点 合計100点			
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進2 病態生理学 (医学書院)			
参考文献 わかりやすい病理学(南江堂)			

科目No.12

分野 専門基礎分野			
科目名 病態論Ⅰ	単位 時間	1単位 30時間	開講時期 1年次後期
講師名 南野 高志	実務経験 医療機関において医師として勤務		
講師名 末松 知真	実務経験 医療機関において医師として勤務		
講師名 門脇 賢典	実務経験 医療機関において医師として勤務		
授業概要 疾病とその医学的対応（検査、治療、処置）という視点から、看護の展開に必要なとされる医学的な基礎知識の学習をする。			
到達目標 呼吸器系の疾患、症状と病態生理、治療、検査、処置について理解できる 循環器系の疾患、症状と病態生理、治療、検査、処置について理解できる 血液系の疾患、症状と病態生理、治療、検査、処置について理解できる			
DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○			
○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
○ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
○ 5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
	呼吸器系		
1	症状と病態生理(呼吸器一般)	講義 ポストテスト	南野高志
2	検査と治療処置（呼吸器、診察、診断、検査）	講義 ポストテスト	
3	疾患の理解（感染症）	講義 ポストテスト	
4	疾患の理解（間質性肺炎、喘息、COPD）	講義 ポストテスト	
5	疾患の理解（肺腫瘍）	講義 ポストテスト	
	循環器系		
6	病態生理、検査	講義 ポストテスト	末松知真
7	病態各論（先天性、弁膜症）	講義 ポストテスト	
8	病態各論（先天性、狭心症、弁膜症）	講義 ポストテスト	
9	病態各論（心筋梗塞、不整脈、急性冠症候群）	講義 ポストテスト	
10	病態各論（血管の病期、高血圧、メタボリックシンドローム）	講義 ポストテスト	
	血液系		
11	血液の生理と造血のしくみ	講義 ポストテスト	門脇賢典
12	検査・診断と徴候	講義 ポストテスト	
13	化学療法	講義 ポストテスト	
14	急性白血病	講義 ポストテスト	
15	悪性リンパ腫	講義 ポストテスト	
	試験		
受講上の注意			
評価方法 ポストテスト 30点 筆記試験 70点			
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液造血器			
参考文献			

分野 専門基礎分野			
科目名 病態論Ⅱ	単位 時間	1単位 30時間	開講時期 1年次後期
講師名 畠山定宗	実務経験	医療機関において医師として勤務	
講師: 田邊真紀人	実務経験	医療機関において医師として勤務	
講師名 真鍋尚至	実務経験	医療機関において医師として勤務	
授業概要			
疾病とその医学的対応（検査、治療、処置）という視点から、看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識の学習をする。			
到達目標			
消化器系の疾患、症状と病態生理、治療、検査、処置について理解できる			
内分泌栄養代謝系の疾患、症状と病態生理、治療、検査、処置について理解できる			
筋骨格系の疾患、症状と病態生理、治療、検査、処置について理解できる			
DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○			
○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
○ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
○ 5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
	消化器系		
1	消化器総論	講義 ポストテスト	畠山定宗
2	胃・十二指腸疾患	講義 ポストテスト	
3	腸疾患	講義 ポストテスト	
4	肝疾患	講義 ポストテスト	
5	胆・膵疾患	講義 ポストテスト	
	内分泌栄養代謝系		
6	内分泌代謝総論	講義 ポストテスト	田邊真紀人
7	症状・検査	講義 ポストテスト	
8	内分泌疾患	講義 ポストテスト	
9	糖尿病	講義 ポストテスト	
10	糖尿病、その他の代謝性疾患	講義 ポストテスト	
	筋骨格系		
11	運動器の構造と機能	講義 ポストテスト	真鍋尚至
12	診断・検査と治療処置	講義 ポストテスト	
13	骨折・脱臼	講義 ポストテスト	
14	変形性関節症	講義 ポストテスト	
15	脊椎脊髄疾患	講義 ポストテスト	
	試験		
受講上の注意			
評価方法			
ポストテスト 30点			
筆記試験 70点			
使用するテキスト			
MEDIC MEDIA 病気がみえる vol.1 病気がみえる 消化器			
医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕内分泌代謝			
医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕運動器			
参考文献			
医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器			

分野 専門基礎分野			
科目名	単位	1単位	開講時期
病態論III	時間	30時間	1年次後期
講師名	安川晋輔	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師名	江崎 嘉十	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師:	高濱宗一郎	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師名	上西秀則	実務経験	
授業概要			
<p>疾病とその医学的対応（検査、治療、処置）という視点から、看護の展開に必要なとされる医学的な基礎知識の学習をする。</p>			
到達目標			
<p>皮膚系の疾患、症状と病態生理、治療、検査、処置について理解できる</p> <p>耳鼻咽喉系の疾患、症状と病態生理、治療、検査、処置について理解できる</p> <p>感染症の症状と病態生理、治療、検査、処置について理解できる</p> <p>多種多様の微生物について概略を知り、微生物を制御する方法、感染症発生への仕組みが理解できる</p>			
DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○			
○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
○ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
○ 5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
	皮膚系		安川 晋輔
1	皮膚の構造と機能	講義 ポストテスト	
2	表在性皮膚疾患	講義 ポストテスト	
3	真皮・皮下組織及び皮膚附属器の疾患、感染症	講義 ポストテスト	
	耳鼻咽喉系		江崎 嘉十
4	耳鼻咽喉科の基礎知識	講義 ポストテスト	
5	主検査、疾患とその治療	講義 ポストテスト	
6	主検査、疾患とその治療	講義 ポストテスト	
	感染症		高濱 宗一郎
7	感染症とは	講義 ポストテスト	
8	主検査、疾患とその治療	講義 ポストテスト	
9	主検査、疾患とその治療	講義 ポストテスト	
	微生物		上西 秀則
10	人間をとりまく様々な微生物	講義 ポストテスト	
11	微生物の感染、感染とは。免疫。	講義 ポストテスト	
12	ワクチン、常在菌、細菌性ウイルス性食中毒、細菌感染（皮膚、粘膜、性病）	講義 ポストテスト	
13	細菌感染（呼吸器、消化器）	講義 ポストテスト	
14	ウイルス感染（全身、呼吸器、肝臓）	講義 ポストテスト	
15	ウイルス感染（免疫系、微生物感染と腫瘍） 真菌感染症	講義 ポストテスト	
	試験		
受講上の注意			
評価方法			
ポストテスト 30点 筆記試験 70点			
使用するテキスト			
医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔12〕皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔11〕アレルギー-膠原病感染症 ヌーベルヒロカワ ビジュアル微生物学			
参考文献			

科目No.15			
分野		専門基礎分野	
科目名	病態論Ⅳ	1単位	開講時期
		時間	30時間
			1年後期
講師名	吉田 鉄彦	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師名	近松惣太郎	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師名	高濱 宗一郎	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師名	坂本 泰基	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師名	藤吉 啓造	実務経験	医療機関において医師として勤務
授業概要			
各器官（腎・泌尿器系、アレルギー・膠原病、歯口腔系、女性生殖器系）の健康障害について症状とその病態生理・検査・治療を学び、健康レベルや機能障害に応じた看護を実践できる基礎を養う。			
到達目標			
1. 腎泌尿器系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。			
2. アレルギー・免疫系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。			
3. 歯口腔系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。			
4. 女性生殖器系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。			
DPとの関連			
関連が深いもの◎、関連するもの○			
○	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
1	腎系疾患の症状とその病態生理、検査と治療、処置	講義 ポストテスト	吉田 鉄彦
2	疾患の理解：腎不全とAKI・CKD、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、全身性疾患による腎障害	講義 ポストテスト	
3		講義 ポストテスト	
4	泌尿器系疾患の症状とその病態生理、検査と治療、処置	講義 ポストテスト	近松 惣太郎
5	疾患の理解：尿路・性器の感染症、尿路結石症、尿路・性器の腫瘍（腎腫瘍、膀胱がん、前立腺がん）、男性不妊症、男性性機能障害、その他の生殖器疾患	講義 ポストテスト	
6		講義 ポストテスト	
7	免疫のしくみとアレルギー、診断・検査と治療、症状と疾患の理解 アレルギー疾患：気管支喘息、アレルギー性鼻炎・結膜炎、食物アレルギー、アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、薬物アレルギー	講義 ポストテスト	高濱 宗一郎
8	自己免疫疾患とその機序、症状とその病態生理、検査と治療 疾患の理解：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、全身性強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、血管炎症候群、ベーチェット病	講義 ポストテスト	
9		講義 ポストテスト	
10	歯・口腔系疾患の症状とその病態生理、検査と治療、処置	講義 ポストテスト	坂本 泰基先生
11		講義 ポストテスト	
12	疾患の理解；齲蝕および歯髄疾患、口腔領域の炎症、口腔粘膜の疾患口腔領域の嚢胞、口腔領域	講義 ポストテスト	
13		講義 ポストテスト	

14	女性生殖器系疾患の症状とその病態生理、検査と治療、処置	講義 ポストテスト	藤吉 啓造
15	疾患の理解：膣炎、子宮頸がん・体がん、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍、月経異常・月経随伴症状、更年期障害、不妊症	講義 ポストテスト	
	終了試験		
受講上の注意 准看護師課程で履修した解剖生理や疾患、解剖生理学の学習を活用できるように復習しておきましょう。 テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。 重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。 わからない語句や内容について調べておきましょう。			
評価方法 ポストテスト（30点）、筆記試験（70点）			
使用するテキスト 今井亜矢子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 8 腎・泌尿器 医学書院 岩井健太郎他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 11 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 渋谷絹子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 15 歯・口腔 医学書院 末岡浩他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 9 女性生殖器 医学書院 参考文献			

分野		専門基礎分野			
科目名	病態論Ⅴ	単位	1単位	開講時期	
		時間	15時間		1年後期
講師名	村谷 浩	実務経験	医療機関において医師として勤務		
講師名	大原 信司	実務経験	医療機関において医師として勤務		
講師名	尾崎 弘明	実務経験	医療機関において医師として勤務		
授業概要					
各器官（脳神経系、眼系）の健康障害について症状とその病態生理・検査・治療を学び、健康レベルや機能障害に応じた看護を実践できる基礎を養う。					
到達目標					
1. 脳神経系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。					
2. 眼系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。					
DPとの関連					
関連が深いもの◎、関連するもの○					
○	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。				
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。				
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。				
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。				
○	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。				
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】					
時間	授業内容		方法	備考	
1	脳神経系疾患の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置		講義 ポストテスト	村谷 浩	
2			講義 ポストテスト		
3			講義 ポストテスト		
4	疾患の理解：脳疾患（クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳腫瘍、頭部外傷）、末梢神経障害、顔面神経麻痺、筋ジストロフィー、重症筋無力症、多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋委縮性側索硬化症、脳・神経系の感染症、てんかん、認知症		講義 ポストテスト	大原 信司	
5			講義 ポストテスト		
6	眼系疾患の症状とその病態生理、検査と治療・処置		講義 ポストテスト	尾崎 弘明	
7	疾患の理解：機能の異常、部位別の疾患（網膜、硝子体、水晶体、緑内障など）、外傷		講義 ポストテスト		
8			講義 ポストテスト		
	終了試験				
受講上の注意					
准看護師課程で履修した解剖生理や疾患、解剖生理学の学習を活用できるように復習しておきましょう。					
テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。					
重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。					
わからない語句や内容について調べておきましょう。					
評価方法					
ポストテスト（16点）、筆記試験（84点）					
使用するテキスト					
井出隆文他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 7 脳・神経 医学書院					
大鹿哲郎他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 13 眼 医学書院					
参考文献					

分野 専門基礎分野			
授業科目名 治療論Ⅰ		単位 時間	1単位 30時間 開講時期 1年次
講師名	山崎京子	実務経験	管理栄養士
講師名	金子敬太	実務経験	理学療法士
授業概要			
<p>1. 「人間」を対象とした新たな栄養学を学び、種々の疾病に対して適切な食事指導ができるようになる基礎を学ぶ。</p> <p>2. リハビリテーションの歴史の変遷をふまえてリハビリテーションチームの特徴、チームにおける看護の役割・機能を学ぶ。</p>			
到達目標			
<p>1) 人間にとっての栄養の意義及び栄養素の種類とそのはたらき説明することができる。</p> <p>2) 栄養アセスメント及びライフステージと栄養ケアマネジメントのについて説明することができる。</p> <p>3) チームで取り組む栄養管理の活動と看護の役割について説明することができる。</p> <p>4) リハビリテーションの基本的考え方と動向について説明することができる。</p> <p>5) 患者の状態に応じたリハビリテーションの内容について説明することができる。</p> <p>6) 身体機能の維持向上のためのリハビリテーションの方法について説明することができる。</p>			
DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○			
<p>○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。</p> <p>◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。</p> <p>○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。</p> <p>◎ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>○ 5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。</p>			
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
	栄養学		
1	人間栄養学と看護、栄養素の種類とはたらき	講義 ポストテスト	山崎京子
2	食物の消化と栄養素の吸収・代謝、エネルギー代謝、食事と食品	講義 ポストテスト	
3	栄養ケア・マネジメント、栄養状態の評価・判定	講義 ポストテスト	
4	ライフステージと栄養、栄養アセスメントの基本	講義 ポストテスト	
5	疾患・症状別食事療法 ①循環器疾患②消化器疾患③術前・術後の栄養管理	講義 ポストテスト	
6	疾患・症状別食事療法 ④腎・泌尿器疾患⑤栄養・代謝性疾患	講義 ポストテスト	
7	疾患・症状別食事療法 ⑥血液疾患 ⑦アレルギー疾患 ⑧精神・神経疾患	講義 ポストテスト	
	リハビリテーション		
8	リハビリテーションの定義と理念、リハビリテーションの対象と制度	講義 ポストテスト	金子敬太
9	疾病・障害・生活機能の分類、リハビリテーションの分野、リハビリテーション医療の提供	講義 ポストテスト	
10	身体機能のアセスメント・障害の評価	講義 ポストテスト	
11	障害・状態別リハビリテーションの実施 【運動器・感覚器系】 関節可動域訓練、筋力増強運動、座位、	講義 演習	
12	立位、歩行訓練等	講義 演習	
13	障害・状態別リハビリテーションの実施 【中枢神経系】	講義 ポストテスト	
14	障害・状態別リハビリテーションの実施 【呼吸器系】 体位ドレナージ、呼吸法	講義 演習	
15	障害・状態別リハビリテーションの実施 【循環器系】 心臓リハビリテーション	講義 ポストテスト	
	筆記試験		
受講上の注意			
評価方法			
栄養学		ポストテスト(14点) 筆記試験 (31点)	
リハビリテーション		ポストテスト(10点) 演習の取り組み (9点) 筆記試験 (36点)	
使用するテキスト			
医学書院 系統看護学講座 専門基礎 栄養学 人体の構造と機能③			
医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法			
医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護			
参考文献			

分野 専門基礎分野						
科目名	治療論Ⅱ	単位 時間	1単位 30時間	開講時期	2年次前期	
講師名	小池城司	実務経験	医療機関において医師として勤務			
講師名	庄司哲也	実務経験	医療機関において医師として勤務			
講師名	小池城司	実務経験	医療機関において医師として勤務			
授業概要						
1. 臨床検査の基礎について理解する。 2. 周手術期における心身両面への影響を理解し、手術侵襲によって引き起こされる生体反応及び回復過程を理解する。 3. 放射線医学の基礎について理解する。 4. 救急看護についての必要な知識を理解する。						
到達目標						
1. 検査内容と疾患のつながりを理解し臨床検査の基礎知識を習得する。 2. 外科的治療や麻酔学の総論を理解し、系統別外科疾患の症状・検査・治療を学び、必要な看護の知識を習得する。 3. 危機的状況にある患者の特性を学び、看護の知識を習得する。						
DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○						
○	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。					
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。					
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。					
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。					
○	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。					
授業の流れ【全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・準備物品など】						
時間	授業内容	方法	備考			
臨床検査【8時間】						
1	臨床検査の基礎	講義	岩永正彦			
2	主な臨床検査 (一般検査、血液学的検査)	講義				
3	主な臨床検査 (化学検査、免疫・血清学的検査)	講義				
4	主な臨床検査 (内分泌学的検査、微生物学的検査、病理学的検査、生体検査)	講義・ポストテスト				
手術療法【18時間】						
5	外科的治療の特徴を有する疾患・症状 (1)腫瘍(2)熱傷(3)ショック	講義・ポストテスト	庄司哲也			
6	手術療法の基礎的理解 (1)手術侵襲と生体の反応のメカニズム	講義・ポストテスト				
7	開胸、開腹手術と低侵襲性手術	講義・ポストテスト				
8	臓器移植の基礎知識、移植の臨床	講義・ポストテスト				
9	麻酔法、麻酔が及ぼす影響	講義・ポストテスト				
10	外科的侵襲に伴う急激な身体変化、多くの術式に共通する合併症	講義・ポストテスト				
11	術前・術中・術後の管理、術後合併症の管理	講義				
12	術前・術中・術後の管理、術後合併症の管理	講義・ポストテスト				
13	主な放射線診断の基礎的事項 (1)X線画像診断の基礎的知識、放射線療法	講義・ポストテスト				
救急法【4時間】						
14	救急看護の役割 (1)発生状況における理解 ①脳神経系	講義			小池城司	
15	救急看護の役割 (1)発生状況における理解 ②循環器系 ③多発外傷	講義・ポストテスト				
	試験					
受講上の注意						
評価方法 学科試験(60点)(手術療法60点) + ポストテスト(40点)(臨床検査20点、手術療法10点、救急法10点)						
使用するテキスト						
	医学書院	系統看護学講座	別巻	臨床検査		
	医学書院	系統看護学講座	別巻1	臨床外科看護総論		
	医学書院	系統看護学講座	別巻2	臨床外科看護各論		
	医学書院	系統看護学講座	別巻	救急看護学		
参考文献						

14	呼吸器と消化器に作用する薬物	講義 ポストテスト	
15	物質代謝に作用する薬物	講義 ポストテスト	
	終了試験		
受講上の注意 准看護師課程で履修した解剖生理や疾患、薬理に関する学習を活用できるように復習しておきましょう。 テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。 重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。 わからない語句や内容について調べておきましょう。			
評価方法 ポストテスト（30点）、筆記試験（70点）			
使用するテキスト 吉岡光弘他著 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野5 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕 薬理学			
参考文献			

分野 専門基礎分野			
科目名	社会保障・社会福祉	単位	1単位
		時間	30時間
		開講時期	1年次前期
講師名	田原豊治	実務経験	社会福祉士
授業概要	<p>かつての社会保障、社会福祉は、ともすれば特定の者を対象とする選別的な制度であったが、時代の変化に伴い、求められる社会保障、社会福祉の内容が変わりつつある。対象を一人の人間として総合的に支えるために必要な社会保障、福祉制度を理解し、保健、医療、福祉サービスの連携の為に必要な素養を得る。合わせて、現状と課題の理解を深める。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度の理念と制度の考え方が理解できる。 2. 対象者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解できる。 		
DPとの関連	関連が深いもの◎、関連するもの○		
<input type="radio"/>	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
<input type="radio"/>	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
<input type="radio"/>	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
<input checked="" type="radio"/>	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
<input type="radio"/>	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
1	社会保障の理念	講義・ポストテスト	
2	社会福祉六法	講義・ポストテスト	
3	保健医療福祉活動の基本	講義・ポストテスト	
4	社会保険制度・社会保険の変遷	講義・ポストテスト	
5	医療保険制度	講義・ポストテスト	
6	介護保険制度	講義・ポストテスト	
7	介護保険制度概要	講義・ポストテスト	
8	年金制度	講義・ポストテスト	
9	雇用保険法	講義・ポストテスト	
10	労働者災害補償保険法	講義・ポストテスト	
11	社会福祉の理念と変遷	講義・ポストテスト	
12	公的扶助、障害者福祉論	講義・ポストテスト	
13	児童、老人への施策	講義・ポストテスト	
14	社会保険行政・保健福祉計画	講義・ポストテスト	
15	社会福祉実践と医療・看護	講義・ポストテスト	
	試験		
受講上の注意			
評価方法	筆記試験(70点)、ポストテスト(30点)		
使用するテキスト	医学書院 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度3 社会福祉		
参考文献			

分野 専門基礎分野			
科目名	公衆衛生学	単位	1単位
時間		1単位	16時間
開講時期	2年次前期		
講師名	松股孝	実務経験	医療機関において医師として勤務
授業概要	公衆衛生学は疾病を予防し、人々の健康生活を守り、増進することを目的とした科学であり、技術である。地域の住民、企業で働く人々、学童など、特定集団を対象とし、社会集団そのものを視野に入れるところに特徴がある。疾病の予防を基盤とし、健康にとって有害な環境や、行動、社会的要因を取り除くことにより、人々の健康状態と生活の質の維持向上を図るため、基盤となる保健統計、現行の各種公衆衛生活動ならびに生活環境により引き起こされる健康障害について学ぶ。		
到達目標	1. 公衆衛生学の概念、歴史的変遷について理解し、地域で暮らす人々の健康生活について理解できる。 2. 生活者の健康に関連する法や制度、その背景及び保健活動の進め方について理解できる。		
DPとの関連	関連が深いもの◎、関連するもの○		
<input type="radio"/>	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
<input type="radio"/>	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
<input type="radio"/>	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
<input checked="" type="radio"/>	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
<input type="radio"/>	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
1	公衆衛生の概念・歴史	講義・ポストテスト	
2	健康指標と予防	講義・ポストテスト	
3	疾病予防と健康管理	講義・ポストテスト	
4	環境保健	講義・ポストテスト	
5	母子保健、学校保健	講義・ポストテスト	
6	精神保健	講義・ポストテスト	
7	老年保健、難病対策	講義・ポストテスト	
8	健康危機管理・災害保健	講義・ポストテスト	
9	試験		
10			
11			
12			
13			
14			
15			
受講上の注意			
評価方法	筆記試験(84点)、ポストテスト(16点)		
使用するテキスト	医学書院 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 メックメックイ 公衆衛生がみえる		
参考文献			